



熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 10周年公開シンポジウム 「変わりゆく地球と雨」の開催について

宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、情報通信研究機構 (NICT) 及び米国航空宇宙局 (NASA) は、1997年11月28日に日米共同ミッションとして打ち上げられた熱帯降雨観測衛星 (Tropical Rainfall Measuring Mission: TRMM) が、観測10年目の節目を迎えるのを記念し、公開シンポジウムを開催します。

「雨」は、日常生活に深い関わりがあるばかりでなく、その分布と変動は、近年、社会的関心が高まっている気候変動や地球温暖化の影響を受けていると言われています。本シンポジウムでは、こうした状況を踏まえ、これまでの TRMM の10年間の観測で得られた成果の中から、「雨」の特徴や変動、水資源としての分布などに関する知見や、天気予報や洪水予報など日常生活に役立っている事例について、一般にもわかりやすく紹介します。さらに、衛星による降水観測、地球観測の意義と社会への貢献や将来の全球降水観測の展望についても議論していきます。

記

熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 10周年公開シンポジウム「変わりゆく地球と雨」

日時：平成19年12月8日 (土) 13:30~16:00

会場：六本木アカデミーヒルズ49 タワーホール

(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49F)

主催：宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、情報通信研究機構 (NICT)、米国航空宇宙局 (NASA)

後援：文部科学省 (予定)、総務省 (予定)、日本水フォーラム

主なプログラム (同時通訳あり)：

「宇宙から雨の特性を知る」 高藪 縁
(東京大学気候システム研究センター教授)

「気候学・暴風雨・洪水の知識に対する TRMM の貢献」 Robert Adler
(NASA, 米国 TRMM プロジェクト・サイエンティスト)

「世界の水問題の解決へ向けて」 沖 大幹
(JAXA 地球観測研究センター水循環研究グループリーダー/東京大学生産技術研究所教授)
「パネルディスカッション—衛星降水観測の意義と展望—」

中澤哲夫 (司会) (気象研究所/日本 TRMM プロジェクト・サイエンティスト)、竹村公太郎 (日本水フォーラム事務局長)、Arthur Hou (NASA, 米国 GPM プロジェクト・サイエンティスト)、中村健治 (名古屋大学/日本 GPM プロジェクト・サイエンティスト)、井口俊夫 (NICT 電磁波計測研究センター グループリーダー)、松浦直人 (JAXA 地球観測研究センター 計画マネージャ)

参加申し込み：下記 URL にて参加申し込み (事前登録) を受け付けています (定員300名、参加費無料)。

http://www.eorc.jaxa.jp/TRMM/10th_symp/

問い合わせ先 (シンポジウム事務局)：

03-5467-5539 (株)プライムインターナショナル)